

創意工夫

高付加価値部品のトップブランドを目指して

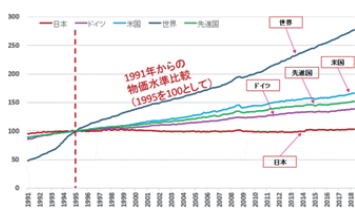
疑問に答える徹底討論！



代表取締役
清水 克洋

昨今の電気、物価高騰の影響について

日本は世界で唯一、需要が供給を下回る需給ギャップマイナスイによるデフレを経験した国であると言われています。1980年代後半から日本国内の物価は下がり、平均賃金も下落傾向が続いています。



出典：ありがとう投信 HPより

日本のそう言った経済環境下、更にはコロナ禍に訪れた物価高騰について様々な報道を毎日のように目にします。ただ、今回の国内の物価高騰については、世界的な物価高騰に巻き込まれたという表現が正しいと考えています。世界的なコロナパンデミックによって様々な製品の生産量が大きく減少した一方、不況対策として各国政府は減税や給付金などでお金をばら撒き需要は大きく増加しました。欧米など、需要と供給のバランスが崩れたことによる物価高騰とは異なり、日本国内についてはウクライナ戦争に起因した資源高・エネ

ルギー高に加え、大きく円安方向に動いた為替の影響が大きいのでは？と考えています。これまでは、平均賃金下がっているものの、物価についても下落していたので、日本経済ならびに国民生活は保たれていました。需給ギャップマイナスイの状態が続いている中で物価高騰は、スタグフレーション（景気が後退していく中でインフレーション（物価上昇）が同時進行する現象のこと）に陥ると言った強い危機感さえ持たざるを得ません。このような経済環境の問題に対して、企業個社の対策は重要になってくると思います。

大きな改善の必要性

先日、日本マイクロソフト株の執行役員である西脇資哲氏の講演を拝聴させていただく機会がありました。その際のテーマは「DX化」です。

日本企業にはびこるDX化を阻害する悪しき文化として、「ホワイトボードでの行動予定管理」、「不在時の付箋などでの伝言メモ」、「FAX文化」などが挙げられました。これらは、全て当社にも残っている文化です。また、製造業においては自社の設備稼働率を全て把握できているかという問いに対して、私含め参加されていた製造業経営者がどなたも「Yes」と言えない状態でした。

これらは一例ですが、現在の凝り固まった考え方を大きく変えることが必要であると実感しました。もちろん、これらは当社だけではなく多くの日本企業に言えることです。西脇先生は、考え方を変化させ実際の業務に反映させる際、一時的な障害は発生する。しかし、大蛇を振るわない限り抜本的な改善にはつながらないと仰っておられました。

DX化により、付加価値を高める

付加価値を高めるためには、人がやるべき仕事と自動化・ロボット化するべき作業とを区別し、人は人にしかできない価値ある仕事に特化することが必要となります。DX化に向けては、IPADプロジェクトとして推進していますが、進捗が鈍化している現状です。プロジェクトの歩みを速めるためには先述の通り、「大きな変化」が必要だと思います。当社における大きな変化をもたらすため、まずは「アナログ探し」からスタートしなければいけないと思います。

当社のビジネスモデルは、製品の作り込みにおいて競合他社が嫌うような非効率な作業に対して培ったノウハウで対応することに強みを活かしたモノづくりです。汎用機など手作業での職人技がその代表例です。これらを全て自動化・ロボット化すると言うことではありません。これらは維持・強化しつつも、例えばその職人技を伝承する際にデジタル技術を登用することが必要ではないでしょうか。アナログ技術もデジタル技術も上手に使い分け、デジタル技術に代替できることをIoTでつなぎ合わせることで当社のDX化だと思っております。

製造、生産管理、生産技術、品質管理、営業、総務の様々な管理の中にデジタル技術で代替できるアナログ作業が隠れていると思います。当社では様々なデータ収集にも取り組んでいます。どのようデータを集めるのかだけではなく、収集したデータをどのように活かすか考えることも当社のDX化にとって重要な視点であり、この視点でのプロジェクト推進を行っていききたいと思います。

半期を終えての状況報告

製造部



金尾 部長

上半期の取り組みを振り返って

今期が始まってから、受注量が減少傾向にあります。その影響を受け、当初の計画通りの売上を確保することが困難になりました。製造部では、受注量の減少に合わせて短納期化に対応するため、前倒し納品に取り組み、現場の作業指示など現場の負担は増加しましたが、結果としては遅延ゼロの実現には至らず、今後の課題だと捉えています。

IPADプロジェクトの自動化に向けた取り組みに関しては、若手社員がデータをまとめてたり、ベテラン社員は加工効率化、工具費削減に取り組んでもらえたことで、着実に進捗しています。

下半期の部門方針

以前より課題であった、通常受注品と短納期品への対応の両立に取り組めます。その結果として毎月の売上金額の確保に努めます。その他、設備のメンテナンス、社内作業環境の

改善に関して、検討し、適宜推進していきます。

部員へのメッセージ

数年前と比較すると、生産量は確実に増加しています。品質や納期などの客先要望に確実に応えるためにも、全員で知恵を出しながら一緒に頑張りたいと思います。

生産統括部



浅野 部長

上半期の取り組みを振り返って

生産統括部として納期遵守率と完成品在庫金額の低減という2つのテーマを掲げ、取り組んできました。納期遵守率に関しては目標80%超と設定した所、80%前後で推移しており、目標達成をキープしている状況です。

完成品在庫金額の低減に関しては、54期の期初からは約20%、在庫

金額を低減させることが出来ました。顧客からの受注減は在庫金額の低減に取り組みやすい状況ではありますが、予想に反して取り組みが進んでいないと感じています。

下半期の部門方針

下半期では、納期遵守率、完成品在庫金額の低減に加えて、顧客別在庫金額目標という3つのテーマを掲げます。

納期遵守率に関しては、最低ラインとして目標納期遵守率80%超の維持、並びに更なる向上に取り組みます。完成品在庫金額の低減に関しては、54期末時点で上半期対比35%減、期初対比48%減となる50百万円を目標とします。顧客別在庫金額目標としては、主要顧客2社で計450百万円、その他5百万円を目安として設定します。

部員へのメッセージ

上半期も終わり、54期の折り返しを過ぎました。受注状況が厳しい中ではありますが、上半期に続き持てる力を動員し、部門目標の達成に向け頑張りたいと思います。

また、これから夏季に入ります。今年も酷暑が予想されています。くれぐれも体調に気を付け、少しでも不調を感じたら早めの対応をお願いします。最後になりますが、ご家族皆様方のご健康・ご多幸を祈念致します。

各部門のIPADプロジェクトの取り組み状況

※赤字が継続して取り組む活動内容です。

製造部

- 『人材育成を見据えた、加工データの収集と見える化』
- 『進捗確認作業の時短』
- 『加工スケジュール作成作業の時短』

生産統括部

- 『RPAの取り組みを生産統括部内に展開』
- 『従来からの手書き&入力作業の撤廃』
- 『在庫の管理方法における問題点の解決』

総務課

- 『総務課作業の中で投下時間の多い作業について、改善のための見える化』
- 『タイムカードの未打刻連絡時間の短縮』
- 『売上額と入金額の突合せ作業の時間短縮』

営業課

- 『工作カードの保管をQRコードを活用した電子管理による自動処理取組』
- 『見積引合及び提出フロー電子承認導入』
- 『課員の活動進捗の見える化』

半期を終えての状況報告

営業課



竹原 課長

上半期の取り組みを振り返って

今期は営業課課長3年目、営業業務フロー変革のまとめの時期です。

従来は営業担当者各自の独特の個性を元に、それぞれで日々の業務フローに取り組んでいました。各自のユニークなやり方が刺激でもあり、良さがありませんでした。一方で、トラブルや業務集中の場面で、周りから応援しづらく、また、進捗や先の見通しに各自程度差があり、特に「上手くいっていない」時の組織としての対応に改善の余地がありました。

加えて、多くのアナログな業務に忙殺され、取引先様とのコミュニケーションに時間を割きにくい面もありました。コロナ期を活かしてチームで業務推進する体制へ移行し、より多くの成果創出(受注)と業務の見せる化推進に取り組んで来ました。上半期では、管理ブロックを再定義し、営業ブロックの社内業務を積極的に取り込むと同時に、ムダ・ムリ・ムラの削減を目的に、デジタル化と自動化をIPADプロジェクト活動

の一環として推進しました。加えて上半期でメンバーはドラスティックに入れ替わりました。それらを踏まえて、担当者依存の業務フローを無くし、業務の標準化が具体的に目に見えるようになり始めたことにチームとしての力と個性の発揮が出来始めている大きな手応えがあります。

下半期の部門方針

脱コロナ期に入り、待ちに待った活発な営業活動再開のタイミングです。管理ブロックでの業務の「落とし込み」で生み出された貴重な工数を営業ブロックでは得意先とのコンタクトを増加させ、受注増に直結する行動の深化に充てることで、受注目標達成に取り組めます。

並行してこれまで取り組んできた仕組みやルールの定義を明確化し、見せる化を更に進展させることで、チームとしての働きを十二分に引き出す仕掛けを積極的に進めます。

課員へのメッセージ

得意先様や社内外の方々のために心を込めて「考えて」「工夫する」対応を発揮したいと考えます。チームとしての一定のルールと考え方の定着と、個性を活かす事をいかに両立させるかがキーとなる取り組み甲斐のあるチームです。大切なメンバー一人一人の前向きなやる気と心身共に健康であることが大事です。チョットずつでもできる所からでも「やってみて」「一緒に前に進んでいきましょ」。

採用PR動画「モノづくり×人づくり」



採用PR動画
「モノづくり×人づくり」

採用PR動画の製作に至った経緯・背景

現在、会社全体で採用活動に力を入れているという状況の中、富山市から採用活動支援事業補助金が発表されていたことから今回の採用PR動画の作成に至りました。学生の就職活動では、業界研究や企業理解は動画を通して行うことが増えてきています。当社の雰囲気や伝わる動画はすでにありましたが、学生が視聴した際に仕事の理解につながる「何をしている会社か」という点によりスポットライトを当てた動画が採用活動においては必要だと感じていました。

この動画は「モノづくり×人づくり」をテーマにしています。「何をしている会社か」と「入社してからどのように成長していけるか」にスポットを当てた構成にしています。動画内では、各事業でどのような製品を製造しているか、実践的教育制度がどのようなものか説明してあります。

学生に人気がある「設計製作部門」は撮影スケジュールの都合から静止画となっていますが、解説と合わせることでイメージが付きやすくなったと思っています。また、この部門の魅力の1つでもある、完成品を自分の目で見届けることができるという点についてもアピールが出来る、仕上がりになりました。

その他にも、最新鋭の協働ロボットが動いているシーンをカッコよく撮影してもらうことができ、気に入っています。また、ドローンを使用して撮影したことで普段目にするのがない、会社全体の規模感や白く美しい建屋の様子は、従業員にとっても見えたえのある映像だと感じています。1月の撮影ということもあり、天候を心配していましたが無事に撮影もでき、安心していきます。

動画に期待する効果

動画を視聴した学生が楽しそうというわくわくした気持ちになり、会社説明会にエントリーしてくれることを期待しています。また、文系の学生でもモノづくりが好きであれば活躍ができる会社であるということも伝われば嬉しいですね。

社内的にも若手ホープたちの向上心を感じるコメントに対して、先輩社員も負けてはいられない！と、会社全体の勢いに繋がればと思っています。この動画は就活生だけでなく、自社の良さを再認識する機会にもなると思いますので、皆さんのモチベーションにも繋がればと嬉しいです。

シゴトの”こだわり”

リフレッシュに欠かせない！
ブラックコーヒー



激戦必須のブラックコーヒー！
あたたか〜いゾーンの入れ替え
が望まれます。

次号は製造2課の藤谷さんを
推薦します。
長年、最終工程を担当して
いるからこそこのこだわりが
あるのではないのでしょうか。

ブラックコーヒーであれば、特にメーカーや商品にこだわりはありませんが、意外と売り切れていることも多く、そんな時は微糖を買います。けれども微糖ですら売れ切れていることもあり、やむを得ずお茶を買って我慢することがこれから夏になると増えます。帰りにドラッグストアでストック用のブラックコーヒーを買い込んで補充されるまで、しのぎますが、そんな時は改めて自販機のありがたみを感じます。

身近で気付きませんでした、こうして考えてみると自分にとってコーヒーは欠かせない存在だと感じます。仕事の相棒や気合いを入れ直すリフレッシュアイテムとして、これからも一緒に仕事に臨んでいきたいと思っています。

競争率高し！
早い者勝ちのブラックコーヒー

やる気のスイッチ



生産管理課
中河さん



石金ニュース！

勤続15年表彰

表彰を受けて15年間を振り返る

一瞬で15年が経過したと感じています。15年前の入社当初は右も左も分からず、ゼロからのスタートでした。文系出身のため、製造業という仕事に関しては全く触れたことがなく、専門用語など基本的なことから学び始めたことを思い出します。何も知らない、分からないことに対して、指導してくれた先輩方のおかげで今があるととても感謝しています。汎用フライスから始まり、NC、マシニングセンタと1つずつ技術を身に付けることが出来たこと、CAD/CAMにチャレンジした時には入社当初を思い出しながら、2回目の成長を実感しました。まずは教わり、次は一人で出来るようになり、最後は教わったことを基に工夫し、より早く、より高い精度で加工が出来るようになるというステップを経て、自分の成長を感じました。

入社当初は今の新しい社屋もなく、この15年間で事務所や工場の新設、そして設備の追加など様々なことが変化しました。その一方で入社当時の設備もいまだに現役で稼働しており、変わらないこともしっかり残っていると感じています。

今後の抱負

業務に関しては、設備や加工方法、工具等、日々変化し新しくなる事に対応し、レベルアップ・スキルアップに尽力していきたいです。また、自分では成人式がほんの少し前だと思っていましたが、気が付けば37歳になりました。改めて健康面も気を使って、今後も頑張っていきます。

勤続15年おめでとうございます！

製造2課 沢村課長

